広島県ＮＩＥ公開セミナー（兼第１１６回広島県ＮＩＥ学習会）

テーマ　「自分」を育てるNIE

日時：令和8年2月8日(日）13:30 ～ 16:30
会場：中国新聞ビル
参加者:50名

第1部【鼎談】「やっぱり新聞は役に立つ―拡がりや深まりで楽しい授業に―」

登壇者　朝倉　淳氏（広島大学名誉教授）
高下　千晴氏（呉市立荘山田小学校教諭）
藤原　みのり氏（竹原市立賀茂川中学校教諭）

高下教諭は小学６年生の授業で中国新聞社の被爆８０年企画「ヒロシマ　ドキュメント」の担当記者を招き、思いを聞いた授業について報告しました。「『ヒロシマ　ドキュメント』は内容が濃くて難解な文章が多い。まずはタイトル、リード文、写真から読み始めさせ、どんどん読み進めていった」というアプローチを提示しました。文庫本に匹敵するほどの文字数が載っている新聞を隅から隅まで読むのは大人でも大変です。高下先生のアドバイスはまさに新聞の読み方入門とも言えるものでした。高下教諭は「子どもたちは記事を遠い過去のことではなく、身近でリアルな出来事として受け止めていた」と手応えを語り、これには朝倉会長も「多読を通じて自然と読めるようになることが素晴らしい」と深く頷いていました。

中学校の事例を報告した藤原教諭は、校内環境の整備に尽力しました。廊下への「NIEコーナー」設置や朝読書への新聞導入に加え、道徳の授業で記事を活用し、投稿欄「ヤングスポット」への積極的な執筆も促しました。藤原教諭は「社会とつながる種をまいていきたい」と熱く語り、NIEについて「子どもが新聞と向き合う時間を十分に確保すること。それが興味関心を広げる」と、日常的な接点の重要性を強調しました。

第2部【トークセッション】「NIEで育つ子どもたち～広島から発信する未来～」

【登壇者】	山田　弥栄子さん	（呉市立長迫小学校６年）
	森本　希承さん	（廿日市市立七尾中学校２年）
	矢澤　輝一さん	（広島大学附属高等学校１年）
	柚川　花菜さん　岸田　紗耶子さん	（崇徳高等学校新聞部３年）
	庄野　愛梨さん	（広島市立本川小学校教諭）
【コーディネーター】	小原　友行氏	（広島大学名誉教授）

中国新聞ジュニアライターや、「中国新聞みんなの新聞コンクール」の最優秀受賞者の小中学生たち６人が登壇しました。前会長の小原先生からは次の三つの問いが投げかけられ、熱心な議論が交わされました。

・最近出合った喜怒哀楽の中の「喜楽」のニュース
・学校や家庭でのNIEにおいて、どのような力が自分自身の中に育まれたか
・AIの時代に「近未来の広島のNIEでは、このような活動を開発してほしい」提案

崇徳高新聞部の岸田さんは被爆者の方に３時間インタビューした経験から「せっかく聞いても載せないと（被爆者の方から受け取った）バトンが途切れてしまう。一方で短くまとめないと読んでもらえないというせめぎあいがあった。ぎゅっと要約して伝える力が一番ついた」と話しました。その真摯な姿勢はプロの記者をも唸らせるものでした。AIについては、「AIは便利だけど誤りが含まれることもある。何か一つのテーマでAIが調べたことを新聞で正しいかどうか検証してほしい」（森本さん）「新聞には記録や記憶という財産がある。キーワード検索が得意なAIを使うことで過去と今を結びつける学習に役立てられるのでは」（柚川さん）といった多角的な提案が相次ぎ、次世代の頼もしさを肌で感じる時間となりました。

【編集後記】

あいにくの大雪、そして慌ただしい選挙当日という状況下での開催となりましたが、会場は熱気に包まれました。朝倉会長は冒頭のあいさつで「選挙や災害があると、最近では偽の情報が出回るようになった。そうした情報にどうむきあうか。しっかりした自分を育てることが私たちにも子どもたちにも必要となっている」と呼びかけました。その言葉に応えるかのように、学校現場からは新聞を「教材」として楽しく使いこなす生き生きとした実践が報告されました。新聞と歩んできた子どもたちが堂々と自らの意見を語る姿に、私たちは新聞が持つ可能性と底力を再確認しました。　（事務局）